

第2学年 生活科の実践

1 単元名 「あそんで ためして くふうして」 (全17時間 本時5時間目)

2 単元目標

単元目標

身近にある物で遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、遊びやおもちゃをつくる面白さや、おもちゃの動きの不思議さに気付くとともに、生活上必要な技能を身に着け、遊びを創り出そうとすることができるようにする。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題 「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの思いや願いを見とった単元構想と授業づくり
ブロックテーマ・・・「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿

(1) 聴く・話すについての指導

「聴く」については、友だちの考えを聴こうとする意識が高いように感じる。聴き方「相手の方を見る・反応をする」を年度当初に子どもたちと一緒に考え、意識させてきた。そのため、話している人を見ながら聴くことはできるようになった。また、相手が悲しくならない反応の仕方をクラスで考え実践してきた。例え間違っただけを言ってしまうでも大丈夫なように雰囲気づくりを行っている。

「話す」については、少人数のグループであれば小さい声でも発表することができる子が多いので、意見に自信をつけるという意味でも全体の発表の前にグループでの発表をするようにしている。

聴く・話すときのルールを自分たちで決めたことで、授業中に意識して取り組むことができるようになった。また、安心して発言できる雰囲気をつくったことで、つぶやきがたくさん聞こえるようになり、話し合いが進むようになった。

(2) 関わり合い・ひびき合い

ノートやプリントに自分の考えを書くことはできるが、クラス全体の話し合いになると発言する子が限られてしまうので、子どもの発言に対して教師が価値付けたり少人数グループで発表し自信をつけたりするなど、多くの子が話し合いに参加できるように工夫してきた。少人数で話し合うことで、自分と似ている意見はもちろん、違う意見にも目を向け、気になる部分があると聞き返したり違う意見も納得するところがあれば自分の意見を書き直したりすることを子どもたちが自然と始めるようになった。

4 単元と指導について

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領第1学年及び2学年の目標の趣旨である、「身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを工夫したり楽しんだりすることができ、活動のよさや大切さに気づき、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。」にあたる。また、学習指導要領の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気づくとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする」を受けている。「遊びを繰り返す」「試す」「友だちと比べる」活動を多く取り入れることで、友だちと楽しく関わり合うことができるようにする。また、友だちと関わることで、「もっと〇〇したい。」と次の目標をもち、活動を継続することができる単元でもある。

(2) 指導について

単元の導入で普段遊んでいるものは何かを聞くと、家ではゲームやYouTubeを見ていると答えた子が多かったが、工作をして遊ぶという子も同じようにいた。教室では主に折り紙を使っていて、家では折り紙はもちろん、牛乳パックや空き箱を使っておもちゃを作っているようだ。特に折り紙は、友だちに教えられるようにYouTubeで折り方を調べており、複雑な折り方のドラゴンやよく飛ぶ紙飛行機を楽しそうに作っている様子を見かける。そこで、子どもたちにとって身近な材料である折り紙を使って単元を進めることとした。

まず、自分でオリジナルの紙飛行機を作り、飛ばす活動から「もっと遠くまで飛ばしたい。」「みんなと競争したい。」と思いをもちだそう。そこから、改良を重ねる際に、教師が発射台を見せて紙飛行機を飛ばすことで「自分も作ってみたい。」「これもありなら、違うアイデアもあるよ!」と様々な意見が出てくると考える。また、紙飛行機を飛ばす大会を開くことで、子どもたちがより「遠くへ飛ばしたい。」という思いを持つだろう。しかし、よく飛ぶ子とそうでない子が出てくる。そこで、ルールを確認したりコツを教えあったりする時間が必要になってくると考える。

次に、試行錯誤して作った様子が記録できるようにワークシートを用意する。最初に自分の思いを書き、その思いを実現できるような紙飛行機のアイデアを書き留めておき、自分で見返せるようにしておくことで学習に見通しがもてると考える。また、ワークシートから自分の考えに自信をもたせたり遠くまで飛ばすコツの情報交換をする際のヒントにさせたりしたい。そのため、ワークシートを書く時間をしっかり確保し教師が子どもの考えを見取っていききたい。

本時で児童が解決したい学習問題は、「紙飛行機をもっと遠くへ飛ばしたい。」である。その学習問題を解決するために話し合いをするが、子どもたちは紙飛行機自体を工夫した子や発射台を工夫した子など工夫したポイントが様々である。そのため、教師が何について話し合っているか、話題を整理・確認したり工夫したポイントやコツを分類しながら板書したりするなどしたい。そして、工夫したポイントやコツを伝え合い、自分の紙飛行機に取り入れようとする姿をひびき合いの姿とし、友だちから聞いたことを生かして紙飛行機を改良していくようにする。

5 単元構想 第2学年 生活科 「あそんで ためして くふうして」 全17時間

単元目標
 ○身近にある物を使って動くおもちゃを作り、遊びや遊びに使うものを工夫したり、おもちゃの作り方や工夫を教えあったりする。
 ○自分なりに動くおもちゃを改良することで、動くおもちゃの面白さや、動きの不思議さに気づき、遊びを楽しむことができる。

工作が好きな児童が多く、休み時間に折り紙を使って遊ぶ子がいる。最近クラスではまっている「紙飛行機」は、工夫をしやすいみんなが作れるので、紙飛行機を使い単元の導入とする。

「あそんで ためして くふうして」みんなで工夫して遊べるものは何かな? ①

・自分で作ってみたいという思いをもち、紙飛行機に何が使えるか考えている。
【主体的に学習に取り組む態度】

- ・折り紙
- ・ドッジボール
- ・鬼ごっこ

- ・苦手な子がいるのはちょっとな。
- ・鬼ごっこが好きじゃない子もいるよね。
- ・折り紙だったら教えられるし、みんなもやってみよう!
- ・折り紙なら、みんなできそう!

- ・児童の考えから課題を作っていく。
- ・ワークシートを使い、考えやふりかえりを残していく。(ワークシート)

・作りたい紙飛行機のイメージをもち、材料や形を考えている。
【思考・判断・表現】

- ・最近みんなが作っている紙飛行機なら、工夫ができるよ!
- ・誰が一番飛ぶかやってみよう!
- ・作ってみよう!

折り紙で紙飛行機を作ってみよう ②③

・道具を安全に使いながら紙飛行機を作ろうとしている。
【思考・判断・表現】

- ・幼稚園でも折ったから、折り方を知ってるよ。
- ・細く作ったほうが速く飛ぶんだよね。
- ・折り方がわからないから、教えてもらおう! ・折り方を知っているから教えるよ!

作れない児童には見本を見せ、道具や作り方の手順を確認し、見通しを持たせる。

困り感を具体的にグループやクラスで共有し、友だちからアドバイスをもらう。

◎先生は、こんなものを作ってみよう!! (発射台つきの紙飛行機)

- ・え?! 折り紙以外にもあるの? 輪ゴムを使うとほかのおもちゃも作れるよね。
- ・同じものを作ってみよう!
- ・材料を用意するからもっとよく見せてほしい。

大会を開こう ④

・飛ばす場所や向きを決め、飛ばした距離を測れるようにする。
 ・人に向かって飛ばさないことに注意させる。

- ・〇〇さんが一番飛んだ!
- ・輪ゴムを使ったらやっぱり飛んだ!
- ・輪ゴムを使っただけで思ったより飛ばなかった。
- ・もっと速くに飛ばしたい。
- ・遠くまで飛ばした人の工夫を知りたい。

もっと速くに飛ばすにはどうしたらいいのかな? ⑤本時 ⑥

・自分の飛行機を飛ばしたり、友だちの飛行機を見たりして、飛行の様子や着地の要素に気づくことができる。
【知識・技能】

| 紙ひこうき | 飛ばし方 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ひこうきを細く作ったよ。 ・先を重くすると飛んだよ。 ・先を折り曲げるといいよ。 ・材料(コピー用紙、画用紙など)を変えるといい。 | <ul style="list-style-type: none"> (手) ・上に向かって飛ばすといいよ。 ・勢いよく飛ばす。 (発射台) ・ゴムの数を変えてみよう。 ・発射台の長さを変えよう。 ・輪ゴムを使うと、とても飛んだよ。 |

紙ひこうき大会をしよう! ⑦

・前より遠くまで飛んだ!
 ・ゴムを使うとよく飛んだ。
 ・**ゴムを使えば他のおもちゃも作れそうだ。**
 ・材料を変えればたくさんのおもちゃもできるよ。

他のおもちゃもいろいろ作ってみよう⑧⑨⑩

・作ったおもちゃで友だちと楽しくあそぶことができる。
【主体的に学習に取り組む態度】

- ・輪ゴムと材料を組み合わせたいろいろなおもちゃができるね。
- ・輪ゴムで動く車を作ってみようかな。
- ・空き箱を使うとおもちゃができそう。
- ・作ったおもちゃで遊んでみたい。

・作ったおもちゃを友だちに紹介している。
【主体的に学習に取り組む態度】
 ・作ったおもちゃで遊びながら、気づいたり教えてもらったりしたことを生かし、改善したり、遊び方を考えたりしている。
【思考・判断・表現】

1年生をしょうたいするじゅんびをしよう⑪⑫

みんなであそぼう! ⑬⑭

・安全で楽しく遊べるような場づくりを行い、遊んでいる様子を見守る。
 ・遊ぶ時間を伝え、いろいろなおもちゃで遊んでもらえるように声をかける。

- ・招待状をつくらう。
- ・ゲームのルールをしっかりと決めないとね。
- ・景品を用意したら喜んでもらえるかな。
- ・壊れちゃうと遊べないから、たくさん作っておこう!

- ・楽しかったから、もっと作りたい!
- ・工夫を変えたらもっとおもしろくなるかも。
- ・ルールをもっと難しくしてもいいかも。
- ・他の子も呼びたい。 ・今の3年生にしてもらったから、1年生を招待したい。

1年生をしょうたいしよう⑮⑯

・1年生に遊び方を教えたり、動かすコツを教えたりして、楽しく遊んでもらえるようにする。
【主体的に学習に取り組む態度】

- ・1年生に分かりやすいように説明しないとけないね。
- ・ゲームごとにお手本をみせよう。
- ・たくさん遊べるように、好きなところに並んでもらおう。でも、並んでいる人数に気をつけよう。

・使用した材料の処理などを考えながら分別し、協力して後片付けをすることができる。**【思考】**
 ・工夫したこととその理由を自己評価し、取り組みの良さに気づく。**【気づき】**

6. 本時について

(1) 本時目標

紙飛行機を遠くへ飛ばす工夫について話し合い、自分の紙飛行機に取り入れようとする事ができる。

(2) 本時展開

| 学習活動 | 主な支援・留意点 ◆評価【観点】 |
|--|---|
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>もっととよくにとばすには、どうすればいいだろう。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><紙ひこうき></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り紙を2まいかさねる。 ・長方形の紙をつかう。 ・かたい紙をつかう。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほそ長くする。 ・先を折りまげる。 ・先をまっすぐになるようにおる。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ものをつける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先にわゴムをつける。 ・羽をつける。 </div> </div> <div style="width: 45%;"> <p><飛ばし方></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・思いきりとばす。 ・まっすぐにとばす。 ・かるくとばす。 ・上にむけてとばす。 </div> <p><はっしゃ台></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴムの数をふやす。 ・ゴムの太さをかえる。 ・紙を2まいつかったのばす。 </div> </div> </div> | <p>○学習問題を確認する。</p> <p>○どうしたらもっと遠くに飛ばせるのか、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから出てきた考えを分類しながら板書する。 ・話し合いの中で自分の紙飛行機に取り入れたいことや気づいたことをワークシートに書けるようにする。 ・理由も言うようにし、話し合いを深める。 <p>○ワークシートに遠くに飛ばすためのポイントをまとめる。</p> <p>◆工夫して遊べるように表現したり、伝え合ったりしている。 【思考・判断・表現】</p> |

7 実践を終えて

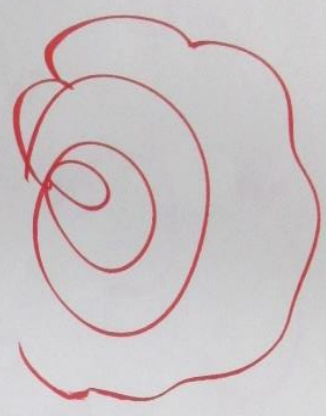
(1) 子どもの解決したい問題となったかについて

本単元の導入として、子どもたちが今作っているもの・はまっているものである「紙飛行機」を用いたので、イメージが付きやすかったり子どもたちにとってより身近な教材に感じたりする様子が見られた。そのため、様々な折り方に挑戦している子や上手な子にアドバイスをもらっている姿があった。さらに、より飛ぶ紙飛行機について調べてきたり話し合いの際に意欲的に参加したりしていた。よって、子どもの解決したい問題となったと言える。

(2) 成果と課題

成果としては3つある。1つ目は、単元構想と学習問題についてである。今回、紙飛行機という児童の身近なものを使ったことで、児童の思考に合った流れが考えられており、楽しみながら学習に取り組むことができた。また、教材についても実態にあったものを用いており、さらにおもちゃを1つに限定したことで児童がより考えやすかったと考える。2つ目は、話し合いの中での教材の使い方である。本時では、「紙飛行機をより遠くへ飛ばすためにはどうすればいいか。」を話し合った。自分が工夫したことや失敗したことを発表する際に、紙飛行機の先の部分や折り方など細かい部分にポイントを置いて話す児童がたぐささんいたので、実物を見せたり書画カメラを使ったりした。また、言葉にこだわり、「軽く飛ばす」「強く飛ばす」など人によってさじ加減が違ふことは、動作化して共通認識を図った。そのため、話し合いの中でのイメージが付きやすく、児童も積極的に話し合いに参加することができた。3つ目は、話し合いについてである。自分たちの解決したい問題をよく理解していたことはもちろん、発表に対したぐささんのつぶやきがあった。さらに、発表する際も自分の言葉で伝えることができていると感じた。

課題としては3つある。1つ目は、板書の整理の仕方である。本時は、たぐささんの考えが出ると予想し、あらかじめ児童がどんな考えをもっているかを把握した。話し合いが進むように出た意見を整理しながら板書をしようとしたが、児童から出た言葉のみの板書になってしまった。児童が話し合いをつないでいくために、意見同士を線でつないだり、言葉だけでなく絵を入れたりするとより分かりやすくなると考える。また、教師の登場として、どの考えを取り上げてどの子につないでいくかを考えることで、話し合いがより深まると感じた。2つ目は、活動時間を取り入れることである。本時は、紙飛行機をより遠くへ飛ばす方法について話し合うことをした。その中には対立した意見が出ており、それについて実際に試してみたいという声があった。45分間すべて話し合いの時間ではなく、実際に試す時間を取り入れたり場の設定を工夫したりする必要があった。3つ目は、振り返りについてである。単元の最初から、自分たちの積み重ねとして授業毎に振り返りを書いてきた。その都度、今日はどんなことをしたか・何を考えたかを児童と一緒に考えて振り返りの視点を決めてきたが、本時は残り時間が少なかったこともあり、視点を伝えないまま振り返りをしてしまった。今まで積み重ねをしてきたので、本時の学習問題に対してどうであったかという視点を事前に与えてから振り返りができると良かったと考える。



工夫を伝え合
の考えを聴いて次に
何を工夫したら考える姿

実物や実演を生かして共有する。

友だちの話をよく聴いて、反応・体言を

と工夫した具体例があった。

板書の仲間分けをしあわせる
同じものを、それぞれ△○の絵を貼る
次、何を工夫するか書かせる。

板書の仲間分けを名前をつ
整理する → 誰の考えか分かるように
同じ言葉でも、ちがいを共有する
ex おひき、ゴムのひき
次に自分から何を工夫するか、誰の考えを
取り入れたかを、誰かから書きかせる。

工夫をきかい

これはどうですか
はい